

2006年12月1日発行

日本顎顔面補綴学会

Japanese Academy of Maxillofacial Prosthetics

Newsletter No. 4

Maxillofacial Prosthetics

発行人 谷口 尚

編集 広報委員会

事務局 〒135-0033 東京都江東区深川2-4-11 一ツ橋印刷(株) 学会事務センター内

Tel: 03-5620-1953 Fax: 03-5620-1960

E-mail: max-service@onebridge.co.jp

第23回学術大会報告

平成18年6月23日(金)、24日(土)徳島大学長井記念ホールにおいて、久保吉廣総会長(徳島大学歯学部)のもと、第23回日本顎顔面補綴学会学術大会が開催された。学術大会前日の22日午後に理事会および各委員会が行われ、23日午前中に、学術委員会主催(清野和夫学術委員長)の第11回教育研修会、午後からは一般口演10題の発表があった。24日は一般口演18題と田中貴信先生(愛知学院大学)の特別講演が行われた。



長井記念ホール

特別講演

日本顎顔面補綴学会の変遷

田中 貴信

愛知学院大学歯学部歯科補綴学第一講座
副題に「あれやこれやの30年」と題して、本



講師 田中貴信先生 座長 久保吉廣総会長

学会の前身である日本顎顔面補綴研究会の発足から関わっておられる田中貴信先生より、「日本顎顔面補綴学会の変遷」というテーマでご講演いただいた。

日本顎顔面補綴研究会発足当時の、「先駆者13人の会員」の先生を、発足当時のさまざまなエピソードとともに紹介していただいた。続いて学会誌「顎顔面補綴」創刊当時の編集の苦労話や、現在も使われている表紙デザインのエピソードなどを紹介していただいた。

また専門用語の統一に携わってこられたため、「顎義歯 vs 義顎」について用語検討委員会での激論の模様に加え、本学会の特徴である演題発表後の質疑応答の活発さは、これは研究会時代からの伝統であり、徹底的に議論を尽くすまで次の演

題には入らず、スケジュールの大幅な延長はごく当たり前といった、当時の学術大会の有様を紹介された。

学会の現状については、会員数は1984年の約700人をピークに、現在は600人くらいを推移していること、学会の出席率の低下、会誌への投稿論文数の低迷などやや不満であるとの感想であった。会員の構成については、当初は口腔外科・補綴が3:1くらいであったが、最近では補綴系が増えたということや、演題数は30~40くらいで会員数の増加の割にはあまり増えてはいないとのことであった。発表内容としては下顎より上顎が多く、エピテーゼが多いこと、クレフトはやや少ないなどの傾向であると説明された。

またご自身の臨床・研究・ものづくりのお話しについてもいくつか紹介していただき、顎義歯に適した咬合器の開発や、コーンスクローネの顎義歯への初めての応用、分割義歯、スプリングを利用した義歯など豊富な臨床経験を紹介いただいた。

今後の若い人たちへは臨床経験や実績をベースにそれらを基礎研究へも発展させ、またあらたな臨床実績へ応用をといった幅広い視野を持つ臨床家・研究者を目指してほしいとのメッセージをいただき講演を締められた。
(広報 諸井)

第11回教育研修会



今年度の教育研究会は九州大学の冲本公繪先生が座長を務められ、「口蓋裂の形態的・機能的回復」をテーマに4名の先生にご講演いただいた。

テーマ：口蓋裂の形態的・機能的回復

座長：冲本公繪先生

九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座

講師：1. 中西秀樹先生

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

感覚・運動・機能外科 形成外科学分野

2. 吉増秀實先生

東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科

地域・福祉口腔保健衛生学講座

3. 石上友彦先生

日本大学歯学部補綴学教室局部床義歯学講座

4. 館村卓先生

大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座顎口腔機能治療学教室

1. 口唇裂・口蓋裂の形成外科的治療

中西 秀樹先生

まず、口唇裂・口蓋裂治療のチームアプローチの現状や、近年の出生率低下による口唇裂・口蓋裂の出生数の減少、顔面裂の分類や神谷の裂型分類について述べられた。裂度3~5が対象となるが、形成外科手術は口唇(顎)形成手術を3ヶ月前後、口蓋形成を1歳前後、4~5歳時に2次修正術、10歳前後に腸骨移植術を行い、その後唇裂鼻修正術を行うという概要や新しい手術法について言及された。また、口蓋裂の構音評価には言語聴覚士の協力が不可欠であるように、口唇裂・口蓋裂の治療には形成外科医、口腔外科医、矯正歯科医、小児歯科医、補綴歯科医や言語聴覚士、耳鼻科医とのチームアプローチが大切であり、さらに、この連携治療による長期症例の検討が大切であることを強調され、講演を締めくくられた。

(広報 松山)

2. 口蓋裂患者の補綴治療に関連した口腔外科手術

吉増 秀實先生



治療終了期の唇顎口蓋裂患者45例の調査結果からは、8割が正常被蓋で、前歯部歯列形成に補綴治療を受けた者は7割弱、その中の8割がブリッジによる補綴治療であった。補綴治療に関する口腔外科手術の中でも顎裂部への骨移植、瘻孔閉鎖術、骨延長術について述べられた。特に骨延長術の導入は、従来のLe Fort I型骨切

りでは得られなかった 10mm 以上の上顎の前方移動が可能となったことや 15mm 前後延長可能な Rigid External Distraction (RED) System システムや 10mm 前後の Zurich 型延長器、さらには twin-track 法や骨トランスポートなどもご紹介いただいた。これらの新しい術式の導入は、より良好な補綴治療につながるものと信じさせられた、非常に興味深い内容であった。

技術や材料の進歩は質の高い治療の提供へつながることを、再認識させられた教育講演であった。

(広報 松山)

3. 口蓋裂の補綴治療



石上 友彦先生

外科系の 2 講演に続き、口蓋裂症例の補綴治療について、石上先生による講演があった。口蓋裂症例の補綴治療が困難になる原因として、①不正咬合、②浅い口腔前庭、③動搖する premaxilla、④浅い瘢痕状の口蓋、⑤残遺乳、⑥緊張した上唇、⑦ maxillary segment の後戻りを上げ、⑧により印象探得時に動搖し良好な適合が得られにくいこと、⑨により治療が複雑になることが述べられた。治療対象者の多くが若年者であることから、処置後の長期的経過における口腔環境の変化に対応する必要性を考慮し、コーンス冠を支台装置とする可撤性補綴装置を多くの症例に装着しており、歯の欠損や顎堤の変化に対処した症例の経過が提示された。その際、内冠上に装着可能な常温重合レジン製の暫間補綴装置を患者に渡し、コーンス義歯を預かって修理や調整を行う場合に速やかな対応ができるよう配慮していることが興味深かった。またコーンス冠では支台装置の前装材料が硬質レジンとなるため、より高度な審美性を求めるケースに対し、磁性アタッチメントによる可撤性ブリッジで対応した例も提示された。安定した咬頭嵌合位を確立することは術後の後戻りを予防する上で重要であるため、事前の診査により必要があればスプリント治療などによる下顎位の安定化を図る

こともあることに触れた上で、補綴治療が不要な症例であっても最終段階として補綴担当医による咬合の確認を受けるのが望ましいことを、まとめとして述べていたことが印象的であった。

コーンス義歯の暫間補綴装置の件などを通して、患者に対するやさしさや配慮が伝わるとともに、真剣に症例に取り組んでおられることがよくわかる講演であった。また口蓋裂症例に対する補綴治療の特徴を明確にした上で、補綴方法の選択に関する示唆に富む内容であり、聴衆にとってたいへん有意義な講演であった。

(広報 山森)

4. 口蓋裂の機能回復

館村 卓先生



教育講演の最後のパートは、機能回復の面から口蓋裂を捉えた館村先生による講演であった。言語治療の目的が安定した許容できる発音機能を生涯維持する

ことであるという定義から始まった講演では、まず機能評価方法に触れ、口蓋帆拳筋の筋活動記録により鼻咽腔閉鎖機能を評価することの意義が提示された。健常者では、ブローイング時に比較して発音時の口蓋帆拳筋活動量が少なく大きな予備能を有するのに対して、境界域のケースでは予備能が減少し、実質的閉鎖不全例では負の予備能となっていることが述べられた。補助装置による鼻咽腔閉鎖能の向上が、同筋の機能を賦活させる可能性があることから、4 歳時に鼻咽腔閉鎖不全症であった症例に装置を使わせたところ、10 歳時には約 1/4 の症例で症状の改善がみられたことを報告している。さらに補助装置の装着によって、連続発音時の口蓋帆拳筋疲労が減少することも確認した。これらの研究データを元に、二次治療として装置やトレーニングによる鼻咽腔閉鎖能の向上を試み、改善がみられない症例のみに modified UVP による手術を行うことで過剰治療を回避しているとのことであった。これ以外にも、若年者ではアデノイドの退縮が完全に予測できないうえ、咽頭弁形成術による睡眠時無呼吸症候群の

誘発の恐れもあることから、低年齢での咽頭弁形成術の施行を避けていることが述べられた。

講師のすばらしい活舌に支えられたスピード感溢れる講演は、口蓋裂症例の機能回復について勉強不足の筆者にとって、リアルタイムで理解するのが困難なほどのボリュームであった。しかし振り返ってみると、数々の根拠を示しながら二次治療プログラム構築の経緯が説明されており、理路整然としたすばらしい講演であった。初心者というよりも、ある程度の治療経験をもつ参加者にとって、得るところの多い講演であったといえよう。

(広報 山森)

会員の声

【病院からみた歯科、顎補綴】



向山 仁

横浜市立みなと赤十字
病院歯科口腔外科

2005 年の 4 月に東
京医科歯科大学顎顔面
補綴学講座より、横浜

市立みなと赤十字病院歯科口腔外科に移りました。この病院は指定管理者制度の下に横浜市が建設した病院に、病院経営者として日本赤十字社が公募の結果選ばれて、23 診療科目、一般病室 584 床、精神科 50 床（平成 19 年度より）の病院を運営しています。市との取り決めにより、病院医療を提供する他に政策的医療として、24 時間 365 日の救急医療、小児救急医療、輪番制救急医療、母児二次救急医療、精神科救急医療、精神科合併症医療、緩和ケア医療、アレルギー疾患医療、障害者児合併症医療、災害時医療を提供する役目になっています。

公的な性格を持つ病院ですが、やはり現場で一番重要視されることは医療の質とコストです。月に一回病院管理会議がありますが、歯科口腔外科の診療収入は相当低いために、病院収益では苦戦を強いられています。それゆえ種々の備品、物品の購入する際には、費用対効果に重きを置く購買

委員会で収益性に基づいた論理を展開するのが厳しい現状です。

病院歯科の立場になって感じる私の個人的な印象を申させていただければ、医科と比べると診療報酬の点数が低めに押さえられているような気がします。顎顔面補綴に関しても、現場の病院では算定が難しい現状にあります。保険診療以外にも顎顔面補綴治療はその後の治療経過が患者様の QOL に大きくかかわってきます。顎骨欠損患者に欠損した組織の再建を行い、人工歯根を埋入して機能回復を図ることは、近年の顎顔面補綴治療体系から考えると必須のように思える側面もあります。保険の審査などでは、学会で受け入れられている治療が全て保険に入れられるわけではないとよくお叱りを受けます。ただ、顎顔面補綴についてすべての症例とはいいませんが、ある種の特定の症例に関して、たとえば顎骨再建後の人工歯根治療が保険に導入されても良いように思うのは私だけではないと思います。

歯科界は今まで歯・顎口腔組織の重要性を、わかるように人々に訴えてこなかったように思います。私自身も自己満足的な治療であったかのように思います。口腔内細菌が、心臓病、血管炎などの全身性疾患に悪影響を与えていた例がありますし、私の病院でも口腔内のことに関して医科からもたくさんコンサルテーションを受けています。ただし、患者様の理解はまだ低いように思います。歯科、顎顔面補綴の重要性に関してわかりやすく、皆様に発信し続けなければと痛切に感じております。顎顔面補綴治療に関しても患者様の QOL を上げるという重要性を、顎顔面補綴学会が中心となって evidence をもって世の中に発信し続けて、世の中の人々に理解していただくことが、これから歯科界のためにも大切なように思います。

わたしも一病院の歯科医として、医療現場の立場から学会や各種の会合におけるいろいろな場で、歯科や顎顔面補綴の重要性を発信してゆきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひします。

私のようなものが日々日常臨床で感じたことを

書かせていただきました。間違い、思い違いなどあると思います。ご批判ご指摘いただければ幸いです。

口腔顎顔面がん患者の会「えがおの会」紹介

—「患者の会」の必要性と実際 「えがおの会」の立上げ—

松山 美和

九州大学病院 義歯補綴科
顎顔面補綴外来主任

顎顔面補綴治療に携わり、患者と関わる中で、「こんな病気は私くらいで、珍しいのでしょうか。」と言われることが多々ある。大学病院をはじめ、耳鼻咽喉科や口腔外科を有する病院では症例はけして少なくはないが、患者同士の繋がりが得られる機会はほとんど無いのが現状である。以前からそのような場の必要性を感じていたところ、一患者から相談を受けた。「昨今は、癌を初めとして様々な病気の患者の会があり、自分もある大きな『がん患者の会』に所属しているが、その中でも口腔や顎顔面の癌の人は自分ひとりであった。」と、「同じ病気の方たちと話ができる場が欲しい。」と。

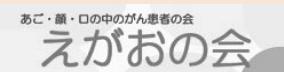
これを機会に、積極的に「口腔顎顔面がん患者の会」を立ち上げることにした。まずは、顎顔面補綴外来患者の中から、会の立上げに協力していただける4名の患者を選び、世話人という形でお願いした。会の名称や目的、活動内容会則を世話人会で決定し、平成16年4月1日に口腔顎顔面がん患者の会『えがおの会』は発足した。

現在設立2年半で、まだ会員20名程度の小さな「患者の会」である。大学病院の介入が大きければ会の維持・運営や拡大は容易であろうが、小さくとも患者自らの手で運営していくことが大と考え、世話人を若干名増やし、世話人会も増やして運営にあたっている。

年1回の総会・懇親会やレクリエーション活動を通じて、ひとりで苦悩していた患者たちには「えがお」が戻ってきたように思える。今までの

活動に加え、今後は広報活動を広げて、同じ病気で苦悩している患者、一人でも多くの方に手を差し伸べていけるような、そんな会に発展していくことを期待する。また、全国に同じような趣旨の患者の会が数多く発足し、患者相互あるいは会相互のネットワークが広がっていくことを期待して止まない。

口腔顎顔面がん患者の会「えがおの会」のホームページは、<http://www.dent.kyushu-u.ac.jp/sosiki/c07/egao/index.html>



「えがおの会」活動報告

代表世話人 若狭 信之

口腔顎顔面がん患者の会
「えがおの会」



「えがおの会」の設立は約2年半前の平成16年4月1日です。外来患者の一人が、この病気に悩み苦しんでいるのに相談したり話し合う場がないことを、九州大学病院顎顔面補綴外来主任の松山先生に訴えたことに始まります。先生も会の必要性については以前から考えていたそうで、ここから本格的な会の設立準備が始まりました。

患者自身が一歩前に踏み出せば、このような「患者の会」はできると思います。私達患者はいつも、病気自体のこと、術後のからだの状態や、義歯のトラブル、社会との関わりなどに不安を感じています。患者同士が励まし合い、精神的に支え合うことをを目指したり、病気と向き合い、より良い社会生活への復帰を目指したりできる場は、私達患者にとって、とても必要なものです。この思いから口腔顎顔面がん患者の会「えがおの会」設立への挑戦が始まりました。

まず、先生の推薦で4名の患者とその家族1名が世話人になりました。世話人会に松山先生も加わり、会の目的や活動について打ち合わせること5、6回、熱い思いの発言が立派な会則を作り、

平成16年4月に小さいながらも元気な「えがおの会」丸が静かに船出しました。

同年11月には第1回の総会・懇親会を開催し、全会員が集まって自己紹介し、今一番困っていることなどを話しました。皆、話すことに飢えている、でも少し緊張して思ったように話ができないような感じがしました。しかし、昨年10月の第2回総会・懇親会では前回よりも気心が知れた雰囲気の中で、楽しいひと時を過ごしました。またレクレーションとして、フラワー・フェスティバル「花どんたく」に皆で行きました。広い会場でしたが、一周しても疲れたという人は一人もいませんでした。皆少しずつ明るさを取り戻しつつあります。

今年も10月1日に第3回の総会・懇親会として食事会を致しました。前回、前々回よりも出席者が増え、おもに次年度の活動計画を検討しました。その後、昼食を取りながら親睦を深めました。食事を口からこぼす人もいましたが、誰一人として気にする人はいませんでした。最初から最後まで笑い声が絶えない会でした。ある会員が「えがおの会ができて、本当に良かった。」と挨拶しましたが、この言葉は私達みんなの本心です。来月はキウイ狩りを計画しています。軽い山歩きを体験し、美味しい空気を胸いっぱい吸い込み、大声で談笑し、皆ひまわりのような笑顔になることでしょう。

口腔顎顔面がん患者の会「えがおの会」、これからも歩みは遅いかもしれません、確実に一步一歩前進したいと思っています。ご支援よろしくお願いします。



次回学術大会

第24回日本顎顔面補綴学会総会・学術大会

開催日：平成19年7月20日（金）～21日（土）
会 場：いわて県民情報交流センター（アイーナ）
総会長：水城春美

お問合せ先：岩手医科大学歯学部口腔外科学第一講座

第12回教育研修会開催予定

関連学会案内

国際学会

●12th Biennial International Conference on Reconstructive Preprosthetic Surgery (ICRPS)

開催日：2007年4月16日～18日
会 場：The Mills House Hotel and Hibernian Hall, Charleston, South Caroline, US

URL : <http://www.res-inc.com/icrps2007.htm>

●8th International Society for Maxillofacial Rehabilitation (ISMR)

September, 2008, Bangkok, Thailand

国内学会

●日本歯科医学会第23回「歯科医学を中心とした総合的な研究を推進する集い（平成18年度）」

開催日：平成19年1月13日（土）
会 場：新歯科医師会館 1F 大会議室（東京都）
お問合せ先：日本歯科医学会事務局

TEL 03-3262-9214

●第25回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会

開催日：平成19年2月2日（金）～3日（土）
会 場：名古屋国際会議場
大会長：下郷和雄
お問合せ先：愛知学院大学歯学部口腔外科学第二講座
TEL 052-759-2160

●第25回日本接着歯学学術大会

※→第49回日本歯科理工学会学術講演会と併催
開催日：平成19年5月12日（土）～13日（日）
会 場：札幌コンベンションセンター
大会長：大野弘機
お問合せ先：北海道医療大学歯学部歯科理工学講座

TEL 0133-23-1211

●第49回日本歯科理工学会学術講演会(春期)

※→第25回日本接着歯学学術大会と併催

開催日：平成19年5月12日(土)～13日(日)

会場：札幌コンベンションセンター

大会長：大野弘機

お問合せ先：北海道医療大学歯学部歯科理工学講座

TEL 0133-23-1211

●第116回(社)日本補綴歯科学会学術大会

開催日：平成19年5月18日(金)～20日(日)

会場：神戸ポートピアホテル

大会長：井上 宏(大阪歯科大学)

お問合せ先：(財)口腔保健協会コンベンション事業部

●第31回日本頭頸部癌学会

開催日：平成19年6月14日(木)～15日(金)

会場：パシフィコ横浜

大会長：佃 守

お問合せ先：横浜市立大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科

TEL 045-787-2687

●第18回日本老年歯科医学会総会・学術大会

開催日：平成19年6月20日(水)～22日(金)

会場：ロイトン札幌、札幌教育文化会館、北海道厚生年金会館

大会長：井上農夫男

お問合せ先：北海道大学歯学部高齢者歯科

TEL 011-706-4582

●第27回日本歯科薬物療法学会総会・学術大会

開催日：平成19年6月21日(木)～23日(土)

会場：日本大学会館、アルカディア市ヶ谷(私学会館)

大会長：藤井 彰

お問合せ先：日本大学松戸歯学部口腔分子薬理学講座

TEL 047-360-9347

●第18回日本スポーツ歯科医学会学術大会・総会

開催日：平成19年6月30日(土)～7月1日(日)

会場：沖縄産業支援センター

大会長：高嶺明彦(沖縄県歯科医師会・会長)

●第20回日本顎関節学会総会・学術大会

開催日：平成19年7月13日(金)～15日(日)

会場：仙台国際センター

大会長：渡邊 誠

お問合せ先：東北大学大学院歯学研究科口腔機

能形態学講座加齢歯科学分野内

TEL 022-717-8395

●第41回日本味と匂学会大会

開催日：平成19年7月26日(木)～28日(土)

会場：タワーホール船堀

大会長：阿部啓子

お問合せ先：東京大学大学院農学生命科学研究所

●第18回日本咀嚼学会学術大会

開催日：平成19年8月25日(土)～26日(日)

会場：千里ライフサイエンスセンター

大会長：野首孝祠

お問合せ先：大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座

TEL 06-6879-2954

●第13回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会

開催日：平成19年9月14日(金)～15日(土)

会場：ソニックスシティホール

大会長：植松 宏

お問合せ先：国立大学法人東京医科歯科大学医歯学総合研究所

●第37回(社)日本口腔インプラント学会総会・学術大会

開催日：平成19年9月14日(金)～16日(日)

会場：A会場：熊本市民会館、B会場：国際交流会館、C会場：産業文化会館

大会長：添島義和

お問合せ先：医療法人伊東会 伊東歯科医院

TEL 096-343-0377

●第52回(社)日本口腔外科学会総会

開催日：平成19年9月29日(土)～30日(日)

会場：名古屋国際会議場

大会長：栗田賢一

お問合せ先：愛知学院大学歯学部口腔外科学第一講座

●第56回日本口腔衛生学会・総会

開催日：平成19年10月3日(水)～5日(金)

会場：タワーホール船堀

大会長：松久保隆

お問合せ先：東京歯科大学衛生学講座

TEL 043-270-3745

●第24回日本障害者歯科学会総会および学術大会

開催日：平成19年11月24日(土)～25日(日)

会場：長崎ブリックホール

大会長：道津剛佑

お問合せ先：長崎県歯科医師会

TEL 095-848-5970

Newsletter No. 4

Maxillofacial Prosthetics

—編集後記—

委員長 沖本公繪

2005年度から石上委員長より引き継ぎ、2年間顎顔面補綴学会の広報に携わってまいりました。委員会活動の目標として、1. 会員への情報の発信、2. 一般の方々への学会広報と情報の提供の2つを掲げました。その方策の1つとして、Newsletter 1号を2005年6月に創刊し、年2回、学会誌とともに会員の先生にお届けし、今回で4号となりました。また2005年12月にホームページをリニューアルし、より多くの情報を会員の皆様に発信することに努めてまいりました。しかし、一般のかたへのサイトおよび海外に情報を発信する英語サイトを充実するには至っておらず、2007年度からの小野委員長を中心とする委員会へ「今後益々の広報活動お願い」として、引き継ぎ事項とさせて頂きます。

最後に、今期委員会活動を支えて頂いた委員会の先生に感謝致します。また活動の場を与えて下さいました谷口 尚理事長にお礼を申し上げます。

日本顎顔面補綴学会広報委員会

委員長 沖本公繪（九大院）

委員 伊藤創造（岩手大）

松山美和（九大院）

山森徹雄（奥羽大）

幹事 諸井亮司（九大院）



沖本公繪



伊藤創造



松山美和



山森徹雄



諸井亮司

コンテンツ

第23回総会報告	1
会員からの声	4
学術大会案内	6
関連学会案内	6

・学会および広報委員会へのご意見ご要望をお寄せ下さい。

・「会員からの声」記事募集しています。

TEL:092-642-6371, FAX:092-642-6374

E-mail:rmoroi@dent.kyushu-u.ac.jp

〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1

九州大学大学院歯学研究院 口腔機能修復学講座 咀嚼機能制御学分野